

第5章 大学院生について

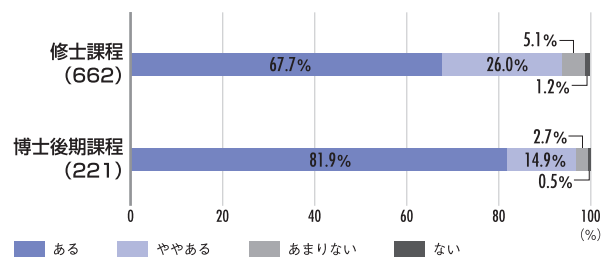
本章では、大学院生の授業への興味や研究指導方法への満足度、将来の進路に向けた準備や不安、家計状況に関する調査結果をまとめました。

※専門職大学院の調査データを含めずに集計しています。

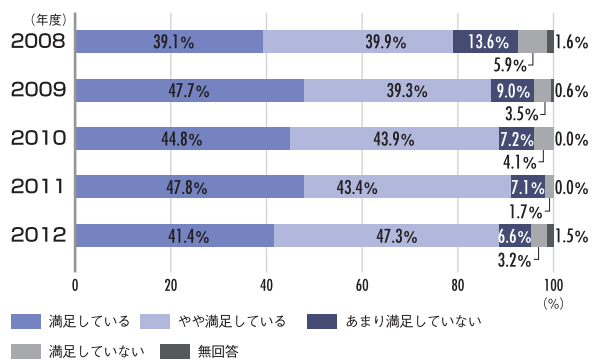
授業への興味について

「ある」の回答の割合は、学部4年生では55.1%でしたが、大学院に進むと、修士課程が67.7%、博士後期課程が81.9%と高い割合になっています。

専門の研究が進むにつれて授業への興味がさらに深まっているのは大学院生ならではの特徴と言えます。



研究指導方法への満足度について



過去5年間、「満足している」割合の大きな変化はありませんが、「やや満足している」は2008年度(39.9%)に比べて7.4%も向上しており、「あまり満足していない」が減少傾向にあります。

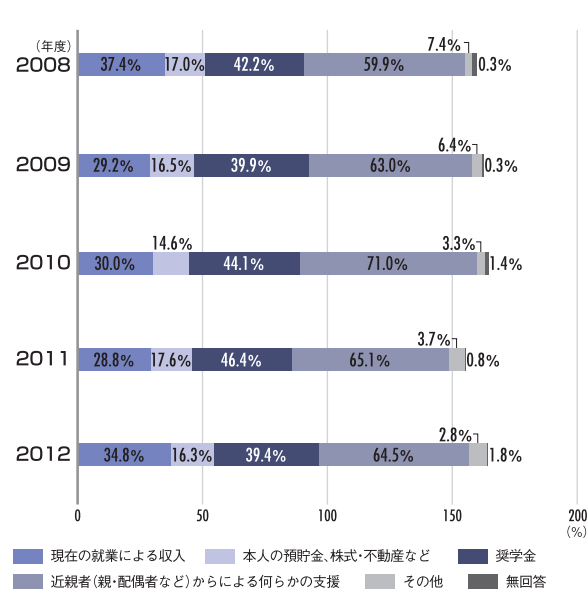
将来に向けた準備について

「学問・研究に励む」が最も高く(修士課程72.7%、博士後期課程80.5%)、次いで語学習得が高くなっています(修士課程47.8%、博士後期課程46.5%)。これらは例年同様の傾向で、大学院生ならではの特徴が見られます。

将来の進路に関する不安について

4年前(2008年度)と見比べると「志望する進路で自活できる心配」が8.7%減少したのに対して、「やりたいことが見つからない」は2%増加し、「志望する進路先に進む能力がない」は6%増加しています。

学費・生活費の収入源について



過去5年間、収入源が就業という回答は20%台後半~30%台後半に留まっており、逆に近親者による支援に頼っているという回答は一貫して過半数を超えています。大学院生が経済的に独立した環境で学ぶことが難しい現状が浮かび上がっています。

家計状況について

全体的に見て、約7割の大学院生が「経済的に独立していない」と回答しています。中でも理工系は「経済的に独立している」という回答が低い割合を示していますが、逆に修士課程に1年制コースなどを設けている研究科は高い割合になっています。

まとめ

大学院生の授業への関心が学部学生よりも一段と高まっているのは、専門の研究が進むにつれて授業への興味が深まっていく大学院生ならではの特徴が現れています。

研究指導方法への満足度を見てみると、「満足している」と「やや満足している」の合計は4年前(2008年度)は79%でしたが、2009年度以降は毎年80%台後半を保っています。

将来設計に関して、4年前(2008年度)のデータと見比べると、将来の自活への不安が減る一方で、「志望する進路先に進む能力がない」という回答が増えていて、かつ「やりたいことが見つからない」の3倍も多いことは気掛かりです。

大学院生の家計状況を見てみると、収入源が「就業」という回答は34.8%で、「親や配偶者などの近親者による支援に頼っている」という回答は64.5%と過半数を超えています。全体的に見て、大学院生の約7割は「経済的に独立していない」と回答しており、「収入源が就業」という回答が約3割あることとの関連がうかがえます。